

第2回エコツーリズムフォーラム2013

Ecotourism Forum second 2013

国内のエコツーリズム先進事例紹介と瀬戸内での活動

平成25年3月9日(土) 13:00 - 16:30 (開場12:30)
リージャスひろしまハイビル21(広島市中区銀山町3-1)

主催:瀬戸内ツーリズム推進協議会
後援:環境省中国四国地方環境事務所、中国経済連合会、一般社団法人日本旅行業協会、
(株)中国新聞社、学校法人鶴学園広島工業大学、IWAD環境福祉専門学校
協力:NPO法人自然環境ネットワークSAREN、NPO法人自然と釣りのネットワーク、
(株)グローバルコスモ、ひろでん中国新聞旅行(株)、(株)近畿日本ツーリスト中国四国

※このフォーラムは、環境省平成24年度地域コーディネーター活用事業、広島県瀬戸内ツーリズム推進事業の一環として運営しております。

瀬戸内海の自然・文化・歴史...守り、育むエコツーリズム

本協議会は、「瀬戸内海の生態系景観を見つめ、自然と文化を探り、多様な自然を守る」ことを理念として活動しています。

また、エコツーリーを構築・実践することで、自然環境の保全・人材の育成・地域振興・新たな観光ビジネスの創生を目指しています。

第2回エコツーリズムフォーラムでは、協議会が掲げる理念や具体的な活動内容を地域の皆様方に広く知っていただくこと、また、エコツーリズムに関する国内の先進事例や瀬戸内での現状の活動などについて共に学び、考えることを狙いとしています。

本フォーラムが瀬戸内海におけるインターブリターの育成や、エコツーリズムネットワークの拡大に繋がることを願っております。



Program 12:30 開場 ※プログラムは変更する場合がございます。

13:00



■オープニング

開会挨拶 上嶋英機 瀬戸内ツーリズム推進協議会 会長(広島工業大学教授)
来賓挨拶 水谷智生 環境省中国四国地方環境事務所 所長

13:20

■第1部

国内のエコツーリズムの先進事例紹介

13:20



基調講演1
「瀬戸内海エコツアーアー確立のための展望と課題」

フンク カロリン 広島大学総合科学研究科准教授

14:40

基調講演2

「地域住民と一緒にしたエコツーリズムの推進」

利根川 忠宏 飯能市エコツーリズム推進室 主査

14:50



■第2部

パネルディスカッション

「瀬戸内海におけるエコツーリズム活動の現状と課題」

16:20

コーディネーター 上嶋英機 瀬戸内ツーリズム推進協議会 会長(広島工業大学教授)

ハネリスト 庫本 正 秋吉台地域エコツーリズム協会 会長

脇山 功

NPO法人自然環境ネットワークSAREN理事長

山本貴道

自然舎 代表

フンク カロリン

広島大学総合科学研究科准教授

利根川 忠宏

飯能市エコツーリズム推進室 主査

16:20



■クロージング

16:30

閉会挨拶 森永智絵 広島県地域政策局海の道プロジェクト・チーム 担当課長

17:00



■交流会

18:30

(注:会場近くで行います。参加費3,000円が必要となります。)

Profile



フンク カロリン Carolin Funck 広島大学総合科学研究科准教授

ドイツ・ライフルク市生まれ。理学博士(地理学)。1987年に来日して以来、松山、西宮、京都、東広島で大学の教員として活躍。日本の農漁村地域における観光開発をテーマにライフルク大学で博士を取得。1998年から広島大学総合科学部で人文地理学、観光地理学の教員となり、2006年の総合科学研究科設置以降、大学院で観光地理学を中心に院生の指導を進めている。研究テーマは持続可能な観光、海洋観光、外国人旅行者による日本国内観光であり、ドイツのバルト海と瀬戸内海は主なフィールドとなる。



利根川 忠宏 Tonegawa Tadahiro 飯能市エコツーリズム推進室 主査

1972年、埼玉県飯能市生まれ。1996年4月、飯能市役所に奉職。2011年より現職。「すべての地域と人の参加」を掲げる飯能市のエコツーリズムの取組みにおいて、地元では「あたりまえ」と思っている身近な自然や衣食住の技術など、地域の宝を、地元住民と一緒に掘り起こし、エコツアープログラムの企画、実施に取り組んでいる。現在、年間100以上のエコツアーが実施されている。



庫本 正 Kuramoto Tadashi 秋吉台地域エコツーリズム協会 会長

1936年、香川県生まれ。山口大学文理学部生物学科卒。農学博士。秋吉台科学博物館名誉館長。山口県環境教育学会長。秋吉台地域エコツーリズム協会会長。秋吉台地域における自然や歴史、文化を守りながら、地域観光の活性化に取り組む。昭和58年に著書『コウモリ—地下実験空からの報告』でサンケイ児童出版文化賞を受賞。平成3年文部大臣表彰、平成9年環境庁長官表彰(自然公園功劳)。



脇山 功 Wakiyama Isao NPO法人自然環境ネットワークS A R E N 理事長

1953年、瀬戸内海のほぼ中央部愛媛県に生まれる。1986年よりフリーカメラマンとして活動後、1997年有限会社ウットを設立、2010年自然環境の保全を目的としたN P O 法人自然環境ネットワークSARENを設立、現在に至る。1999年愛媛新聞に瀬戸内海の写真とエッセイを連載。2001年NHK松山放送局(日本の自然・瀬戸内海)番組制作に携わるなど、瀬戸内海の景観写真を撮り続けている。2009年広島県景観会議第16回写真の部大賞を授与。



山本 貴道 Yamamoto Takamichi 自然舎 代表

1972年小豆島生まれ。高校卒業後島を離れ、筑波大学にて生物学を学ぶ。卒業後は東京都庁に就職し、奥座で3年間川の魚の研究をした後、小笠原父島で6年間海洋生物の研究をおこなう。小笠原で出会った大自然とそこで自由に生きる島人に心を大きくゆさぶられ、一念発起で前職を退職。2004年に小豆島に帰郷し、ガイドサービス「自然舎」を設立。小豆島の魅力を多くの人たちに伝えようと日々楽しみ中。



上嶋 英機 Ueshima Hideki 瀬戸内ツーリズム推進協議会 会長

1944年、福井県敦賀市生まれ。工学博士。1972年、通商産業省工業技術院の国立研究所に入所(現・産業技術総合研究所)。2005年より広島工業大学大学院工学系研究科環境学専攻にて現職。2010年、「一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会」理事長に就任。2011年、「瀬戸内ツーリズム推進協議会」会長に就任。所属団体に、世界閉鎖性環境保全会議・EMECS(科学政策委員)、瀬戸内海研究会議(監事・企画委員)、広島県水域環境再生研究会(副会長)、など。

【瀬戸内ツーリズム推進協議会の活動】

1. 瀬戸内海国立公園における「瀬戸内海エコツーリズム」の構築

各種エコツアーの開発をおこなっています。

- ・宮島エコツアー(外国人ツーリスト向け・国内ツーリスト向け)
- ・安芸灘諸島エコツアー
- ・芸予諸島エコツアー

2. エコツーリズムのための人材育成

地域コーディネーターや、エコツアーガイド育成のための養成・研修体制の構築と実践的活動をおこなっています。

3. エコツーリズムのための施設整備と地域活性化

宿泊施設等の施設整備計画の立案や、地域活性化のための基盤構築をおこなっています。



瀬戸内ツーリズム推進協議会の概要

名 称 瀬戸内ツーリズム推進協議会

代表者 会長 上嶋英機（広島工業大学 教授）

監事 森永智絵（広島県地域政策局海の道プロジェクトチーム 担当課長）

設 立 平成 23 年 11 月

■ 理念と目的

瀬戸内海は、わが国最大の豊かな自然環境資源と海洋文化・歴史を有する内海部です。特に、瀬戸内海国立公園の島々が多様に存在し、豊かな環境資源と景観を有しています。この豊かな自然環境資源と歴史文化資源を長期的に保護し活用するには、自然景観と生物多様性の存在を実感しその価値を満喫する具体的な活動やシステムが必要です。そこで、この協議会では、「瀬戸内海の生態系景観を見つめ自然と文化を探り、多様な自然を守る」ことを理念としたエコツアーを構築し実践し、自然環境の保全、地域コミュニティーの振興、新たな観光ビジネスの振興を目的とします。

エコツアーを通じて、地域環境（生態系景観）のあり方を考え、
その保全・再生に取り組み、生物多様性の確保を目指す

瀬戸内の自然環境と歴史・文化を学ぶエコツアーの実施

■ 活 動

1. エコツーリズムの構築

瀬戸内海国立公園の環境資源を評価し、その資源を活用したエコツアーの開発を行います。

○宮島エコツアー（外国人ツーリスト向け／国内ツーリスト向け）

○安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー

○防予諸島（高防大島）エコツアー

2. セミナーやフォーラムの開催

自然環境の保全や生物多様性の確保に向けた情報・技術的手法・取り組みなどについてのセミナーやフォーラムを開講し、一般に普及啓発を図ります。

3. 人材育成

地域コーディネーターやエコツアーガイド（インターブリター）などの人材育成を行うため、養成・研修体制を構築し、実践的活動を行います。

4. 施設整備と地域活性化

エコツーリズムを運用するために必要な宿泊施設などの施設整備やエコツアーサイトの地域活性化のための基盤の構築を図ります。

■協議会の構成と運営体制

協議会の構成メンバーは、以下の通りです。尚、オブザーバーとして、関係団体（企業、大学、NPO等）を配置し、随時協議会に参加してもらいます。

機 関 広島県 地域政策局海の道プロジェクトチーム

呉市 環境部環境政策課

廿日市市 環境産業部観光課

事務局 一般社団法人 濱戸内海エコツーリズム協議会



オープニング

平成24年度の協議会活動報告



瀬戸内ツーリズム推進協議会 平成24年度活動報告



瀬戸内ツーリズム推進協議会
会長 上嶋 英樹



瀬戸内ツーリズム推進協議会の概要



◆理念と目的

この協議会では、「瀬戸内海の生態系景観を見つめ自然と文化を探り、多様な自然を守る」ことを理念としたエコツアーを構築し実践し、自然環境の保全、地域コミュニティーの振興、新たな観光ビジネスの振興を目的する。

エコツアーを通じて、地域環境（生態系景観）のあり方を考え、その保全・再生に取り組み、生物多様性の確保を目指す

瀬戸内の自然環境と歴史・文化を学ぶエコツアーの実施



瀬戸内ツーリズム推進協議会の概要



◆協議会の構成

広島県 : 海の道構想プロジェクトチーム

: 自然環境課

廿日市市: 環境産業部観光課

呉市 : 環境部環境政策課

事務局 (社)瀬戸内海エコツーリズム協議会

(2010年10月設立)

オブザーバー 環境省中国四国地方環境事務所



瀬戸内ツーリズム推進協議会の概要



◆活動範囲



環境省の施策



① エコツーリズムを通じた地域活性化事業

～魅力あるプログラムづくりとそれを支えるガイドの育成～

魅力的なエコツアーの不足

外国人旅行者の増加

質の高いガイドの不足

地域コーディネーター活用事業

- 地域による魅力あるプログラムづくりを国として支援
- ・全国で10地域
 - ・国が地域協議会に対し事業費の2分の1を助成
 - ・交付額1地域当たり1千1百万円以内



エコツアープログラム

資源調査

外国人旅行者のためのプログラム整備事業

モデルプログラムづくりを野生鳥獣の生息地など7箇所程度において、国が直接実施。

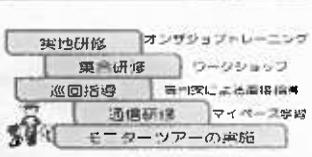
- モデル的なプログラムの作成
(ハードウォッチング、ナイトハイク等)
セルフガイド用パンフレット等の作成



外国人旅行者

エコツーリズムガイド育成事業

- ・国が、研修生の募集、教材の作成、講師の派遣等にかかる経費を負担
- ・30ヶ所程度の民間施設を活用し、年間150人程度の研修生を受入



ガイドス

室内研修

事業内容の概要



事業項目	目標	活動
エコツアーコンサルティング	<ul style="list-style-type: none">・外国人旅行者向けのエコツアーアクセス・国内旅行者向けのエコツアーアクセス	7/1宮島資源調査、11/24宮島エコツアーエコマップ(英語版) 8/4・H25.3/23(予定)周防大島エコツアーエコマップ 11/13-14蒲刈エコツアーエコマップ
人財育成	<ul style="list-style-type: none">・養成研修「エコ塾」の開校・フォーラムの開催	11/13-14蒲刈エコツアーエコ塾 3/9第2回フォーラム開催
施設整備と活用	<ul style="list-style-type: none">・エコツーリズムのための施設整備と地域活性化	3エリアのエコツアーエコマップに折り込み試行した。



第1部 国内のエコツーリズムの先進事例紹介

・基調講演 1

「瀬戸内海エコツアーの確立のための展望と課題」

フンク・カロリン 広島大学総合科学研究院准教授

・基調講演 2

「地域住民と一緒にしたエコツーリズムの推進」

利根川 忠宏 飯能市エコツーリズム推進室 主査

「瀬戸内エコツアー確立のための展望と課題」

広島大学総合科学研究所 フンク・カロリン

1. Ecotourism を考える

【Ecotourism の定義】

- 自然と伝統文化の観察や評価を主な動機にした、自然資源をもとに行われる観光
- 教育的・解釈的な面を有する
- 少人数のグループを相手に、専門的で、地元資本をもとに成り立っている中小業者により行われる
- 自然・社会・文化的環境への影響を最低限に押さえる
- 地元コミュニティーや自然保護に関わる団体に経済的な利益をもたらし、地元に雇用を提供し、観光者や地元の自然・文化資源に対する意識を高めることにより、自然地域の保護を支援する (WTO and UNEP, 2001)

【Ecotourism の発想とその要因】

- 発展論の変化：発展と保存の対立から発展と保存の共生へ
→ 持続可能な発展 (sustainability)
- 発展の担い手は個人またはグループ
→ NGO,市民社会 (community based)
- 発展の実現はローカル（町、村）範囲で
→ 内発的開発 (local level development)

【Ecotourism の評価】

- マス・ツーリズムとの対照関係が指摘され、「新しい観光」の形態として期待されている
- 発展と保存の共生を通じて、周縁・農村地域に持続可能な生活基盤を提供できると期待されている
- 実際行われている Ecotourism に関する批判が多いが、その目的まで問われることが少ない
- 指摘されている問題点：
 - 大衆観光の発展段階になる恐れ
 - 國際援助との関係による権力問題（國內にも中心と周縁の権力問題がある）

【Ecotourism に関する疑問】

- 「地元住民参画」原則：
 - 事業の実施方法などに関する参画なのか、事業の発想、基本的な方向性に関する決定権なのか？
 - 「地元」内における利害関係、格差の問題
 - 「地元」とはだれか？
- 「伝統を重視する」原則：
 - 自然破壊をもたらす伝統的な生活・知識もある
 - すべての伝統は作られたものである

- 「伝統」とはなにか？
- 「自然資源」原則
 - 人間が関わっていない自然がほとんど存在しない
 - 「自然」とはなにか？

2. エコツーリズム先進地に見る課題：屋久島

- 山岳部・縄文杉への観光者集中
- ガイドの実態：全国有数のエコツアーガイド「産地」
- 内容、料金、安全の問題
 - 登録システム（エコツーリズム推進協議会、観光協会）と育成システム（環境文化村）を導入
- 屋久島のイメージ
 - 一般的なイメージ：縄文杉 + ガイド
 - 専門家イメージ：環境への過剰負担、ガイドの質の低下、規制への強い反対
 - どちらも偏っている
- 屋久島イメージの定着：その効果と課題
 - エコツアーがマス・ツーリズムの一部になり、旅行業者のツアー計画にも含まれる
 - 観光産業が安定する：数ヶ所に集中した需要による環境負担、交通問題
 - 移住者の増加
 - 地域の活性化、移住者相手の仕事の創出；都市計画外地域での乱開発、観光産業の競争激化
- 屋久島の例から読み取れる課題
 - イメージの偏り、急な観光者数増加 → 成功から生まれる問題
 - エコツーリズムに相応しい環境・景観の維持・創造 → エコツーリズムの対象資源を狭く捕らえる問題
 - 人材育成
 - 移住者と地域の関係
 - ツアー内容の工夫

3. 濑戸内海のエコツーリズム

- 濑戸内海を対象にした エコツーリズムは？
 - エコツアー総覧：瀬戸内海地域で 6 社者、8 ツアー
 - 内容：カヤックが多い
 - 海の体験学習が一部の島で定着
- エコツアーの事例紹介
- エコツアーのテーマと課題

【テーマ】

- 海の体験 → 潮待ち、風待ちの体験
- 環境汚染を乗り越えた瀬戸内海
- 変化する瀬戸内海の生物・植物

サイクリングを通して地域を知る

【課題】

- 天気の不安定 → 必ずプランBが必要
- インストラクターの確保
- 活動場所の選択
- 利用できる施設の確保
- 自然的・文化的環境の維持と創出

4. 今後の発展

- マス・ツーリズムとの関係
マス・ツーリズム地域の知名度を活かし、エコツーリズムに繋げる
- 地元と移住者の関係
移住者、外部者の経験と知識は不可欠である
- 自然・文化環境の維持と創出
エコツーリズムは自然資源の保護に貢献するだけではなく、全体的な自然・文化環境の維持に繋げる
- 人材育成：「海の教育」を定着させる

以上



エコツーリズムの目的

①

①資源の保全



「地域の自然や文化などの保全・継承」

②観光振興

「地域の自然や文化などの資源を理解し楽しむ観光」

③地域振興

「地域経済や地域社会の活性化」



飯能市のエコツーリズム

住民・行政の連携による「まちづくり」の施策の一つ



「すべての地域と人の参加」

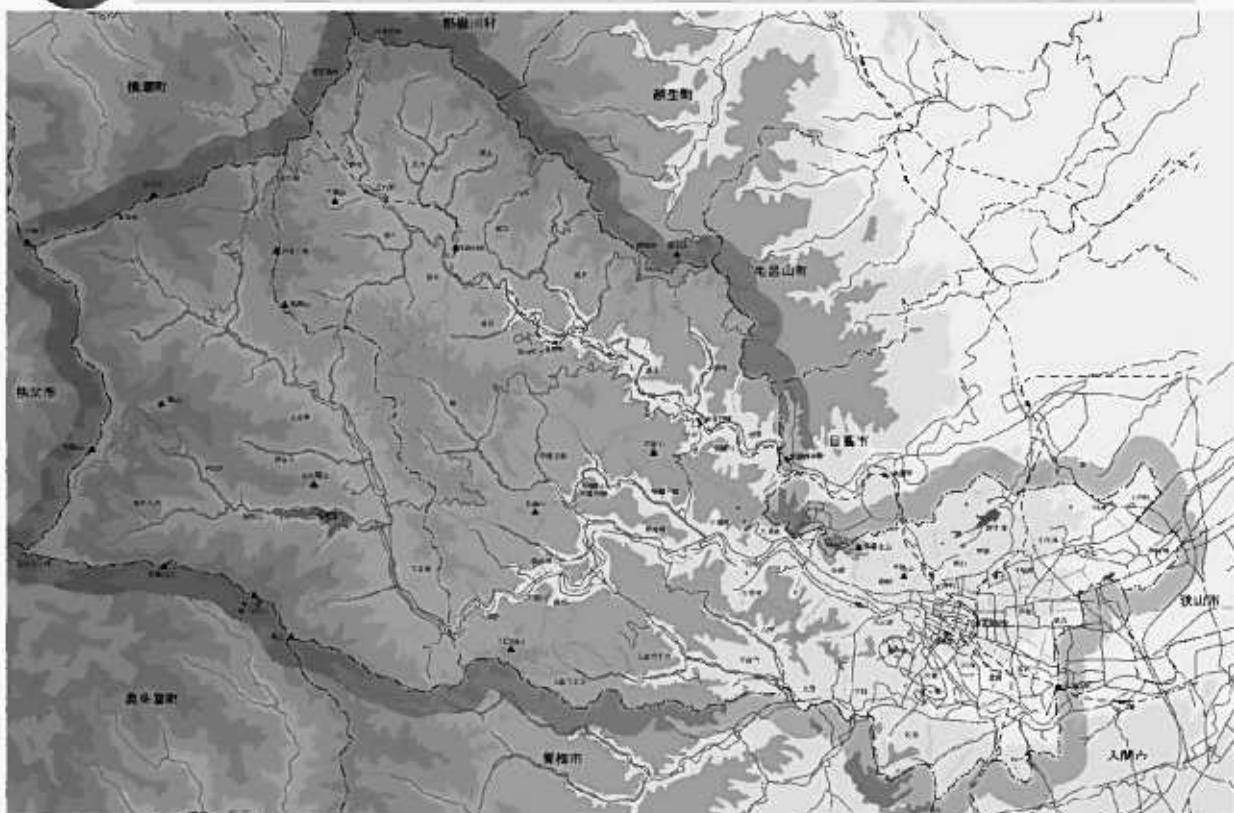
- ・飯能市域全域で展開
- ・住民、NPO団体、ご近所グループなどがエコツアーを運営

「自然・文化・人のつながりによって発展する活力ある地域」



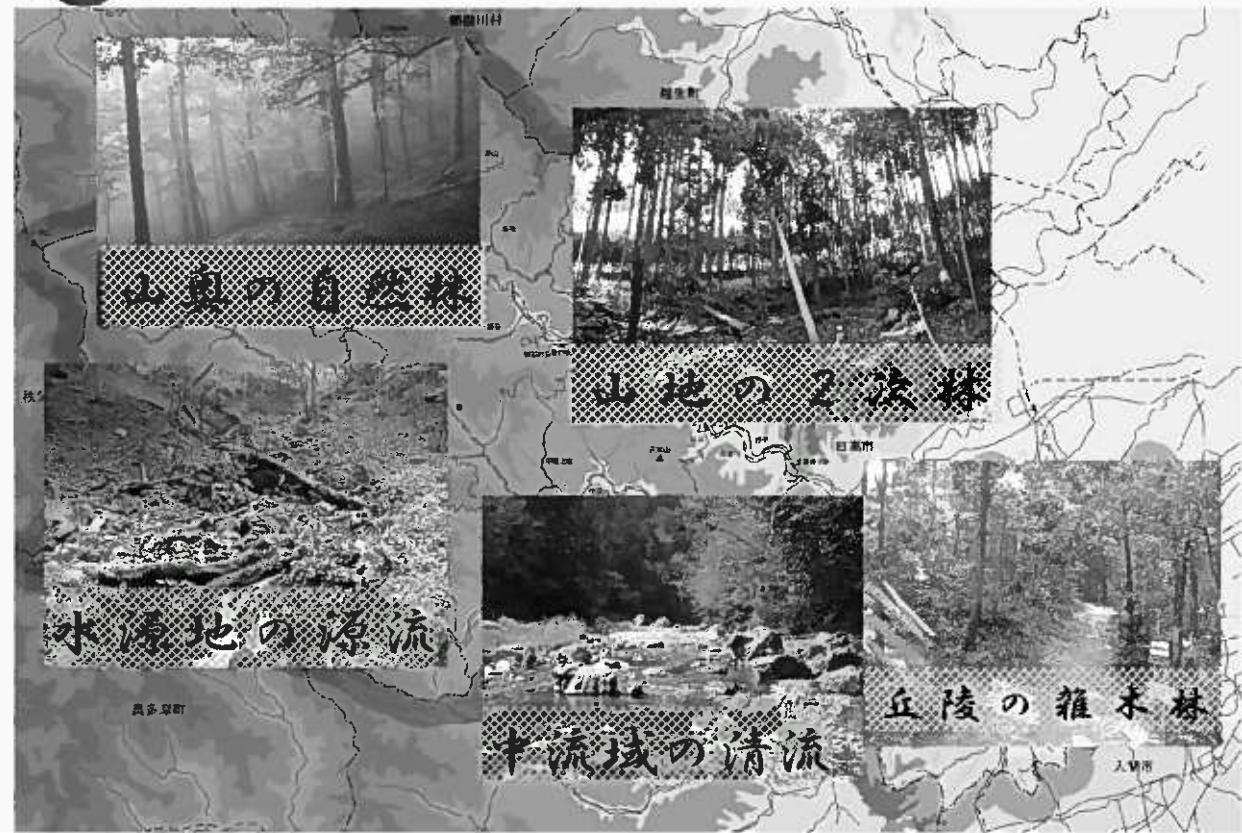
森林が育むまち

面積193km² 約82,000人





森林が育むまち



里山の豊かな自然・育まれた歴史・文化、暮らし





取り組みのきっかけ

年間約250万人の観光客

その多くが地域と関わりなく

帰っていく状況

中心市街地・山間地域の活力低下

観光客による自然環境への悪影響

林業の不況による森林の荒廃



豊かな自然観光資源・歴史文化資源を生かし、守りながら、地域の活性化や経済振興につなげていく手段はないか。



エコツーリズムが有効な手段



飯能市のエコツーリズムの特色 ①

身近にある里地里山という地域での自然環境や歴史、そこで培われてきた生活文化、食文化などがツアーの資源

身近な里地里山だからこそ提供できる、参加者の共感が生まれるツアー



身近な自然と生活文化が「宝物」

身近な自然と地域の人々が持っている生活の智恵や、衣食住の技術が「宝物」



おばあちゃんがうどん打ちを教える

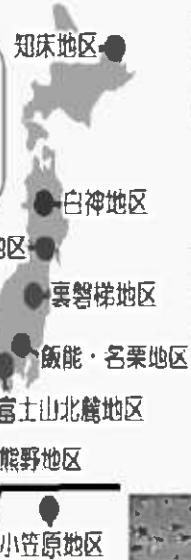


おじいちゃんが川あそびのしかたを教える



環境省13のモデル地区指定

- 豊かな自然の中での取り組み
- 多くの来訪者が訪れる観光地での取り組み
- 里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取り組み



● 豊かな自然の中での取り組み



● 多くの来訪者が訪れる観光地での取り組み



● 里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取り組み





飯能市エコツーリズム推進協議会

駿河台大学 現代文化学部	学識経験者	NPO法人 天高山・檜ヶ岳の自然を守る会	
帝京科学大学 生命環境学部		木馬をつくる会	自然保全、環境保全等の活動または文化財保護、伝統機能保存その他の文化活動をしている者
飯能市自治会連合会	自治会等の関係者	NPO法人 カブー工房	
飯能市商店街連盟		NPO法人 西川木楽会	
飯能商工会議所	商店街等の関係者	お歩きマーケット実行委員会	
飯能市観光協会		飯能市文化財保護審議会	
飯能市農林産物加工直売所	観光事業の関係者	名栗山人会	
東吾野女性林研「ときめ木」		長宿西山莊笑美亭	
西川林業クラブ		ぐるーぶ俱楽部 in 飯能	
き・ま・ま・工・房木楽里	農林業の関係者	埼玉県農業地方整備事務所立川農・林企画課	関係行政機関職員
埼玉県林業経営者協会		国土交通省関東運輸局飯能支所振興課	
飯能市農業青年会議所		農林水産省関東農政局農村振興課	
		埼玉県自然環境課	
		飯能市環境部	市職員



推進協議会では…

- 1 エコツーリズム全体構想の作成及び変更
- 2 エコツーリズムの推進に係る連絡調整
- 3 エコツアーの企画及び実施
- 4 エコツアーガイドの養成
- 5 エコツーリズムの普及啓発と情報発信

など

エコツーリズム推進全体構想

推進の目的

地域の個性と魅力の源である自然を保全し、人と自然に育まれてきた文化を継承しながら、これらを有効に活用することにより、多くの人に心の豊かさと感動を与える旅を提供するとともに、これを地域の活力に繋げる。

基本方針1

飯能市の自然を保全・再生し、文化を継承して将来へ伝えます。

基本方針2

訪れるたびに新たな発見や変化のある楽しく満足できる旅を提供します。

基本方針3

すべての地域と住民の参加により、地元への誇りと愛着を育みます。

質を高め、維持するしくみ

エコツアーの質を確保するために！

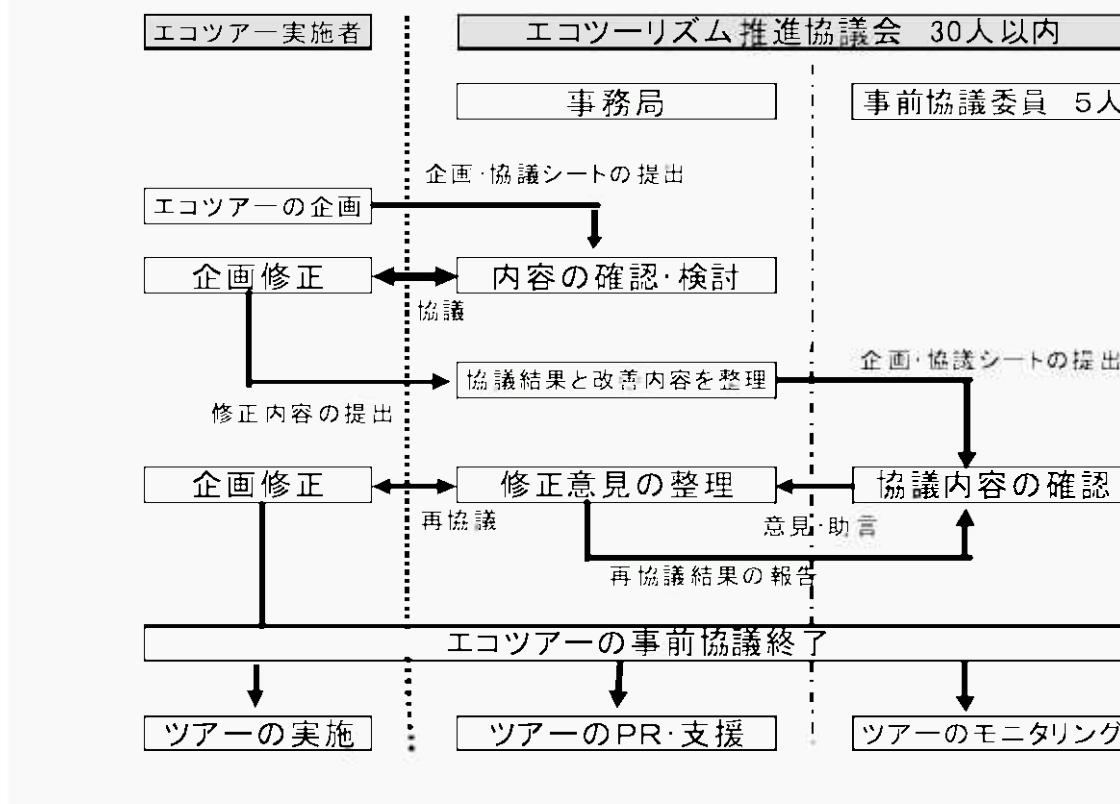
①事前協議制度

②ルール(地域の取り決め)の設定

③モニタリング

(自然観光資源・ツアー)

エコツアーア事前協議制度のフロー



ルール(地域の取り決め)の設定

◎ルールによって保護する対象

- A 野生動植物及び野生動植物の生息地・生育地など
- B 史跡、伝統文化など
- C 地球環境やエネルギーなどの環境全般
- D 地域住民の生活環境
- E 参加者の安全
- F エコツアーアの質



モニタリングの実施

プログラム（ツア）のモニタリング

- ◆ ツアー実施後の参加者アンケート
 - // 実施者へのアンケート
 - ◆ (ツアーのふりかえり、ルールチェック)
 - // ツアー同行者のツアーメモ
- ◆ 推進協議会からアドバイスを受けて改善



飯能市のエコツーリズムの特色②

基本方針3 「すべての地域と人の参加」



誰もがガイドになれるエコツーリズムを目指す

「地域に住む人が、

地域の言葉で、地域をガイドする」



飯能市のエコツーリズムの特色

誰もがガイドになれるエコツーリズム

「地域の人が、
地域の言葉で、
地域をガイドする」



①エコツーリズムオープンカレッジ

- ・ガイドの知識や技術などを学ぶ。



②ステップアップ講習

- ・ガイド技術、エコツアーの企画力を磨く

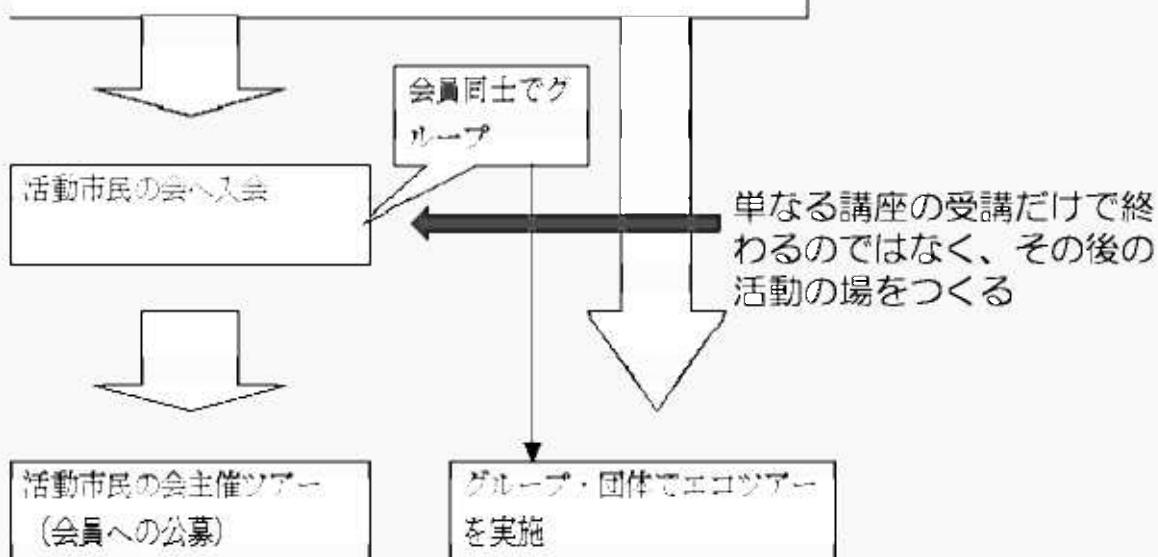
③出前講座

- ・エコツアーに取り組みたい団体へのレクチャー



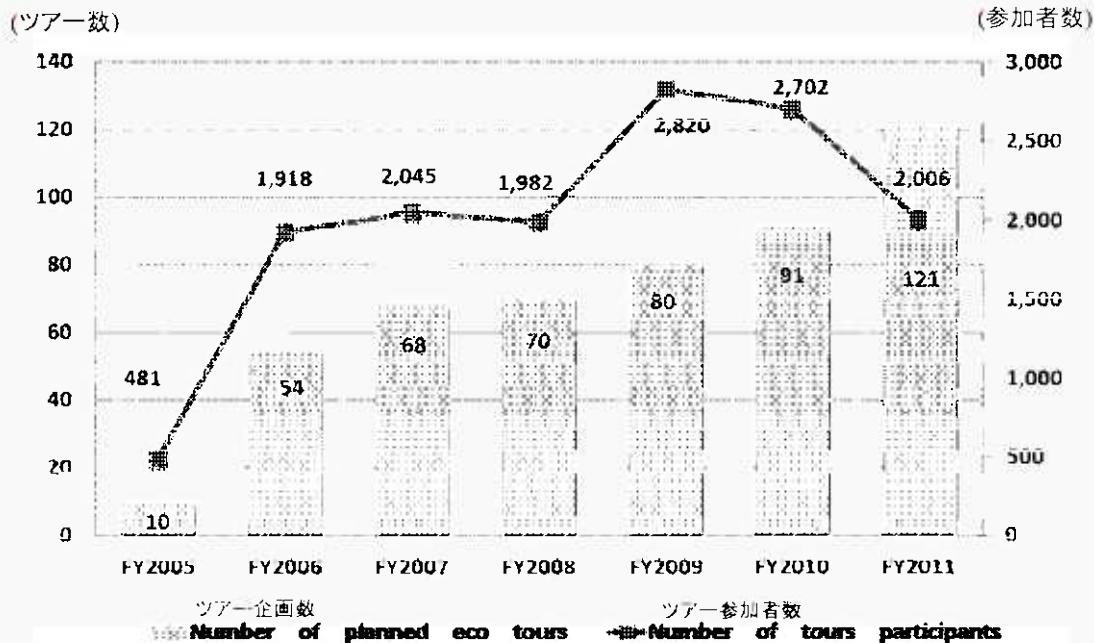
オープンカレッジ修了者は……

飯能名栗エコツーリズムオープンカレッジ





エコツアーオの推移



参加者の割合：市内40%・市外60% リピーター率45%



エコツーリズムによる効果

- ①環境保全：新たな自然保護の形と環境意識の醸成
- ②観光振興：新たな来訪者の誘致とイメージアップ、ブランド化
- ③地域振興：新たな交流と地域への誇り、愛着を育む



効果 新たな自然環境保全の形を創出

谷津田の再生



皆で作って食べる昼ごはん



今までの自然環境保護活動は、
関心のある人がボランティア的に行う



ツーリズムとしての楽しみを付加

これまで自然環境保護活動に参加
していなかった人が参加する



効果 新たな環境教育の場を提供



体験型遠足・はんのう里山体感ツアー

ムササビから
教わる里山動物

- ・「エコツアー+遠足」で質の高い体験型遠足を実施
- ・親子で楽しめるプログラムを企画



新たな環境教育の場となり、

環境保全への意識が高まる

効果 新たな来訪者の増加

従来の観光客とは違った客層の来訪



効果 市のイメージアップ・PR





効果 人の交流・ネットワークの創出



世代を越えた交流や、都市地域と山間地域の交流など、様々な人々の交流が生まれる



地域で組織を作る



地区住民とNPOと一緒に活動する



事業の効果 人・地域の宝の再発見



むかし遊びの達人



川遊びの達人



エコツアーの下見で新たな地域資源を発見



事業の効果 新たな山間地域振興



「この路線でこんなに多くの人が乗っているのを初めてみました」
バスの運転手



「今度また友達を誘って来ます」

永続的な取組みにするために

①リピーターの確保

- ・同じコンセプトのツアーを、シリーズで実施



山のおばあちゃんの干し柿づくり



主婦パティシエと柚子のスイーツづくり

取りきれない（放任）果実を活用して楽しもう！



永続的な取組みにするために

②新しい客層の獲得

- 今までにない難度の高いアクティビティを組み入れ、若者層の獲得を目指す。



③団体等との連携

- 団体等と連携し、会員向けツアーや開催



永続的な取組みとするために

④宿泊型など経済的効果の高いツアーワーの可能性を探る

⑤イベントとの連携

- イベントと連携したツアーを実施。イベントに参加するだけでは体験できないもの・見どころを案内



「飯能まつり」で地元の人と一緒に山車曳き体験



永続的な取組みとするために

⑥積極的な情報発信

- ・ツイッターの開始
- ・チラシ設置場所の拡大
- ・マスコミへの積極的な情報提供

⑦人材の育成

- ・モデルツアーやワークショップに合わせた専門知識を習得する機会の提供
- ・ガイド同士が、お互いに情報交換する機会の提供



飯能市のエコツーリズム

飯能市の場合は「まちづくりの施策」のひとつ

～エコツーリズム推進全体構想～

訪れる方に満足していただける旅の提供のほかに、地域の魅力の源である自然を守り、文化を継承していくこと、そしてそこに暮らす住民が地域の魅力を再発見し、地域が元気になること

～エコツーリズムの推進によって目指す地域の姿～

自然・文化・人のつながりによって発展する活力ある地域



- ・自分の町では、どのようにエコツーリズムに取り組んでいくかという考えをしっかりと持つこと
 - ・地域住民の理解と協力
 - ・エコツーリズムに関わる人材の育成

第2部 パネルディスカッション

コーディネーター

上嶋 英機 濑戸内ツーリズム推進協議会 会長

パネリスト

庫本 正 秋吉台地域エコツーリズム協会

脇山 功 NPO 法人自然環境ネットワーク SAREN 理事長

山本 貴道 自然舎 代表

フンク・カロリン 広島大学総合科学研究所 准教授

利根川 忠宏 飯能市エコツーリズム推進室 主査



瀬戸内海におけるエコツーリズムの 具現化と運用



瀬戸内ツーリズム推進協議会

広島県海の道構想プロジェクトチーム、自然環境課

廿日市市環境産業部観光課

呉市環境部環境政策課

事務局：(社)瀬戸内海エコツーリズム協議会

オフサーカー：中国四国地方環境事務所



○エコツアー実施工ア



1. 宮島エコツアー



外国人を対象とした 宮島の自然を海から見つめるエコツアー



1. 宮島エコツアー



2012 11/24

■Meeting place: Miyajimaguchi
Sakitachi Bridge (behind the
souvenir shop "Mamijihonjin")
■Meeting time : 08:30
■Participation fee : JPY 10,000
■Expected number of participants

first registered 10 persons



Initiated by: Association for promotion of tourism in Setonaikai region
Organization bureau: Setonaikai Ecotourism Association

アクティビティー

- 船による七浦巡り
- 下谷干潟、青海苔浦自然観察
- 漂着物観察
- 潮間帯生物観察
- 写真撮影会

得られた事

- コンテンツの開拓
- 運用システムの構築
- 外国人旅行者視点のツアーアイデア商品開拓

1. 宮島エコツアー



ユネスコ世界遺産指定

ユネスコ世界遺産指定範囲

宮島大野町

バッファーラー

北端

宮島
(畳島)

ラムサール条約登録範囲(西部の海岸142ha)

ラムサール条約登録

0~10m
10~20m
20m~



1. 宮島エコツアー



七浦神社

杉ノ浦神社



御床浦神社

鷹ノ巣神社



腰細浦神社

青海苔神社



須屋浦神社



山白浜神社



1. 宮島エコツアー

宮島の外国人観光の現状

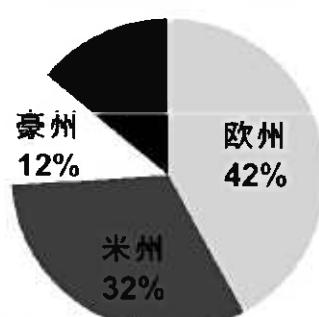


年間の観光客
数
約300万人

外国人観光客数
11万7千人
(2010年)

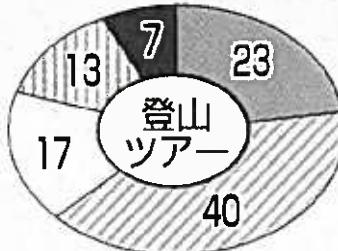
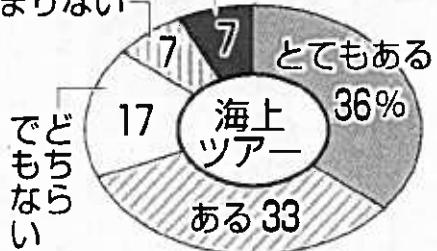
・欧米豪からの観光客が中心

地域別観光客の割合



外国人観光客の宮島エコツアーに対する興味

あまりない ない



1. 宮島エコツアー

ツアーコース：七浦神社を船で巡る海域コース



1. 宮島エコツアー

参加者

定員10名中8名

参加者の出身国

フランス／アメリカ／

中国／フィリピン／

ウクライナ／イギリス

日本・・・7カ国

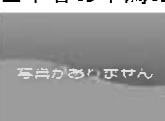


1. 宮島エコツアー

自然観察・写真撮影会（下谷干潟）



■下谷の干潟の生物



ハクセンシオマネギ



アナシャコ



アッポウエビ



アサリ



1. 宮島エコツアー 自然観察・写真撮影会（下谷干潟）



1. 宮島エコツアー 自然観察（青海苔浦）



1. 宮島エコツアー 自然観察・写真撮影会（青海苔浦）



1. 宮島エコツアー 昼食



地元名物のアナゴ飯／焼き牡蠣
の他、海岸で採集した貝類や海
藻を味噌汁やしゃぶしゃぶで提供



1. 宮島エコツアー 潮間帯生物観察（腰細浦）



1. 宮島エコツアー 潮間帯生物観察・漂着物観察



1. 宮島エコツアー

参加者の声



- ・ 参加者のツアー満足度は高い
- ・ インターネットをもっと活用したツアー案内、専門用語を使わない英語版ガイドブック
- ・ 陸域コース（登山・トレッキング）とのセット



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー



人材養成講座「エコ塾」とのジョイント研修
エコツーリズムを学ぶエコツアー in かまがり



呉市上蒲刈島・下蒲刈島



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー



エコツーリズムを学ぶ エコツアーアinかまがり

エコツーリズムの基本と仕組み、エコツアーガイド技術の基礎を、楽しみながら学ぶ1泊2日の研修。

日 時： 2012/11/13(火)～14(水)

場 所： 岡市上蒲刈島・下蒲刈島

定 員： 10名

参加費： 20,000円(研修・食事・宿泊料込)

主 催： 瀬戸内ツーリズム推進協議会

「瀬戸内クリエイティブ実業議会」は、因島、備前、笠岡市町、一帯の農林水産業者が内海エコツーリズム協議会を構成メンバーとする団体です。県内各地の連携した地域資源（自然、歴史、文化）の健全と活性、人材の育成、地域の活性化、新たな誕生ビジネスの萌芽を目指して、エコツーリズムの実現・輪廻共振をめざしています。

講師陣

上船 英機 瀬戸内ツーリズム推進協議会会長、工島工業大学教授

清本 正 佐古谷地域エコツーリズム協議会会長、佐古谷科学博物館名誉館長

河野 宏樹 瀬戸内ツーリズム推進協議会代表

アクティビティー

- 海辺の生物・漂着物観察
- 星空ウォッキング
- シーカヤック体験

得られた事

- コンテンツの開拓
- 「エコ塾」プレ開講による人材養成
- 既存施設の有効活用



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー



人材養成講座『エコ塾』 基礎～応用コースのプレ開講！

瀬戸内
各地で
活躍

今回はココ

できる

解る

知る

- ① 基礎知識：エコツーリズム概論／観光学／地域社会学等
- ② 技術：インテリテーション(ガイド)技術／プログラムデザインの方法／ファシリテーション技術等
- ③ 事業運営：組織運営の実際／マーケティング論／プロデュースの方法等
- ④ 安全管理：リスクマネジメント論／関連法規等
- ⑤ 資源管理：地域資源調査の方法／自然環境保全論／動植物に関する知識と同定法等



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー



参加者

定員10名中10名

旅行業関係者／通訳案内士
／アウトドア施設運営企業
／自然保護団体／専門学校
生 等

人材育成講座“エコ塾”と
“エコツアー”とのジョイ
ントした楽しみながら学ぶ
一泊二日の研修を開催！



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー



スケジュール

〈11/13・1日目〉

時間	場所	内容
10:30~11:00	蒲刈オーリングセンター	オリエンテーション
11:00~11:45	"	講義『エコツーリズム概論』
11:45~12:30	"	講義『エコツーリズム推進地域における取組事例』
12:30~13:30	"	昼食
13:30~15:30	恋ヶ浜海岸	自然体験『海辺の生物・漂着物観察』
15:30~18:00	B&G海洋センター研修室および県民の浜周辺フィールド	講義『エコツアーガイド技術』
18:30~19:30	呉市かまがり天体観測館	自然体験『星空ウォッチング』
20:00~	宿泊施設トウモローハウス	夕食・交流会

〈11/14・2日目〉

時間	場所	内容
8:00~8:30	宿泊施設トウモローハウス	朝食
9:00~10:30	梶ヶ浜海岸	自然体験『シーカヤック体験』
11:00~12:30	B&G海洋センター研修室および県民の浜周辺フィールド	講義『エコツアーガイド技術』
12:30~13:30	"	昼食
13:30~15:30	"	講義『エコツアーガイド技術』
15:30~16:00	"	ふりかえり



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー

講義：エコツーリズム概論／先進事例



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー

講義：インターパリテーション（ガイド）技術論



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー

海辺の生物・漂着物観察



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー

星空ウォッキング



テーマ
「秋の星空を眺めよう！」



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー シーカヤック体験



テーマ
「目線を海面に合わせ
海との一体感を感じよう！」



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー 修了証授与



2. 安芸灘諸島（蒲刈）エコツアー



参加者の声

- ・研修の内容／講義レベル／研修時間／金額の設定は、概ね妥当
- ・参加者のエコツーリズムに対する理解、エコツーリズムに対する興味／関心の誘発・向上に概ね成功
- ・ツアーガイド養成研修の継続的な実施が求められた



3. 防予諸島（周防大島）エコツアー



自然環境資源と歴史文化資源を堪能する
周防大島をめぐる海と陸からのエコツアー



瀬戸内海国立公園
生態系の頂点 スナメリ
海域公園指定 ニホンアワサンゴ群生地



3. 防予諸島（周防大島）エコツアー



周防大島を巡る海と島からのエコツアーア

スナメリ ■ ニホンアワサンゴ ウォッチング

開催スケジュール予定

8:30~9:30 周防大島 通り(南岸沿い)

9:30~11:00 船に乗り換え⇒スナメリウォッチング

11:00~12:30 ニホンアワサンゴウォッチング

12:30~14:00 バス移動⇒和田～片瀬(昼食)

14:00~15:30 なぎさ水族館・ザンセトとくわ等

16:30 ピジコム球場到着予定

(8:30~16:30)

お問い合わせ: 093-822-1111 (受付時間: 9:00~17:00)

防予諸島には古くから漁洋文化と豊かな自然環境資源があります。特に、瀬戸内海独自の海岸哺乳類であるスナメリが防予諸島海域に棲息しています。また、周防大島南岸海域には日本最大規模のニホンアワサンゴの生息地が存在します。これらの特別なスナメリとニホンアワサンゴの存在と、島の風土・文化を体験するため周防大島を舞台にした島と陸からのエコツアーアを実施します。

お問い合わせ: 093-822-1111 (受付時間: 9:00~17:00)

TEL: 093-822-1111 FAX: 093-822-1111

8/4(土)

アクティビティー

- スナメリウォッチング
- ニホンアワサンゴ観察
- 島巡り

得られたこと

- コンテンツの開拓
- エコツアーアの認知活動



3. 防予諸島（周防大島）エコツアーア



スナメリ

スナメリ100頭計れ

周防大島沖で確認

お問い合わせ: 093-822-1111 (受付時間: 9:00~17:00)

TEL: 093-822-1111 FAX: 093-822-1111



写真:中国新聞

記事:中国新聞(2012.6.13付)



3. 防予諸島（周防大島）エコツアー



ニホンアワサンゴ



NPO法人 自然と釣りのネットワーク

日本では . . .



- ・千葉県～種子島の太平洋岸、山口県・島根県沖の日本海側に分布
- ・東アジアの固有種
- ・温帯域に生息するサンゴ
- ・岩礁域の岩に生息

- ・沖縄などに生息するサンゴと同じ仲間
- ・イシサンゴ目ハマサンゴ科アワサンゴ属
- ・エダサンゴ・ミドリイシの仲間

瀬戸内海では



3. 防予諸島（周防大島）エコツアー

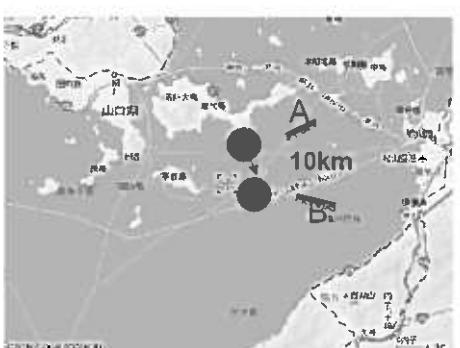


周防大島では

- ・周防大島の群生地は地図で示す2ヶ所ある。

A : 沖家室島

- ・Aの群生地は広さが2000m² (50mプール2つ分)もあり、日本一の広さである。
- ・当時の広さは今の半分以下だった。
- ・ニホンアワサンゴとわかったのは約10年前である。
- ・水深が3m～15mに生息している。
- ・周防大島以外の群生地はその個体数が10個体程度であるが、A地点の数は約4万個はある。



B : 小水無瀬島

- ・2011年11月に周防大島（屋代島）の10km沖合の小水無瀬島で発見された。
- ・この群生地の広さは50mで、水深7～9mに生息している。
- ・個体数は約100個体である。
- ・この群生地の広さは、日本2番目である。



3. 防予諸島（周防大島）エコツアー



参加者

定員10名を超え16名

国・周辺自治体・商工会議所などの職員、旅行業関係者等が中心

ツアーコース

海域：チャーター船

陸域：バス



3. 防予諸島（周防大島）エコツアー



スケジュール

本日のスケジュール		
時間	内容	場所
8:30	集合(バス乗車) ・お車で来る方は球場の駐車場に駐車 ・電車で来る方は大畠駅で合流	ビジコム柄井スタジアム
8:30	周防大島南岸巡り	大島大橋～安下庄
9:30	船に乗り換え	安下庄
9:30 11:00	スナメリウォッチング 上荷内島(カミニナイシマ)⇒平都島(ヘイグントウ)	安下庄～沖家室島
11:00 11:20	沖家室島巡り	沖家室島
11:20 12:15	伝馬船乗り換え ニホンアワサンゴウォッチング	水中カメラ、ハコメガネにて観察 ダイバーによる撮影
12:15 12:50	伝馬船⇒船⇒バス 乗り換え	沖家室島～ 片添～和田
12:50 14:00	元氣屋なごみ(食事)	和田
14:00 14:40	なぎさ水族館 座奥記念館	タッチングプールにて生物とふれあい 世界最強の半乾「座奥」巡り
14:40 15:30	サザンセトとうわ	お土産の買い物、小休憩
15:30 16:30	周防大島北岸巡り	長崎～ 大島大橋
16:30	終了	

3. 防予諸島（周防大島）エコツアー スナメリウォッチング



3. 防予諸島（周防大島）エコツアー ニホンアワサンゴ観察



↑ 箱めがねで観察

→ダイバーが水中カメラ
で撮影し、船上のモニ
ターで観察



3. 防予諸島（周防大島）エコツアー



昼食



農家レストランげんき
やで岩牡蠣など地元料
理を提供！



3. 防予諸島（周防大島）エコツアー



島巡り



←なぎさ水族館



陸奥記念館→



3. 防予諸島（周防大島）エコツアー 参加者の声



- ・ 7割近くの参加者が、満足を得られた
- ・ ゆったりした宿泊型プランの要望が多かった
- ・ 島内観光と海域自然環境資源観察の組み合わせは好評であった。
- ・ 課題として、エコツアーを常態化した場合の旅行業としての仕組み化や料金設定などが挙げられた。



3. 防予諸島（周防大島）エコツアー 3/23第2回エコツアー開催決定！



防予諸島を船でめぐるエコツアー ～大水無瀬島とスナメリ＆ニホンアワサンゴウォッチング～

防予諸島は自然の魅力が一杯です。

瀬戸内海の生態系の頂点に位置する「スナメリ」、瀬戸内海国立公園で初めて海域公園として指定される予定の「ニホンアワサンゴ群生地」、また、「大水無瀬島」周辺の海域は瀬戸内海で最も清澄な場所のひとつです。この自然環境の魅力あふれる防予諸島を船で巡ります。



開催日 2013年

3/23(土)

(9:30～16:30)

*直天の場合は3/21に順延します。

○参加費2,000円(資料代、食事代) ○集合場所: 柳井港 洋研館はねの

主催 濱戸内ツーリズム推進協議会
共催 NPO法人 自然と釣りのネットワーク

■開催スケジュール(予定)

9:30	柳井港集合
10:00	柳井港を出港
10:00～11:30	スナメリウォッチング
11:30～13:30	
13:30～16:00	大水無瀬島自然体験(海岸生物他)
15:00～16:30	柳井港へ移動
16:30	解散

■集合場所(柳井港フェリーターミナル)



■注意事項

当日は暖かい服装でお越し下さい。雨具、飲料もご準備下さい。夏食時にお茶は準備致します。また、自然体験に際して長靴、双眼鏡、カメラ等があるとより楽しめます。

■お問い合わせ・お問合せ

瀬戸内ツーリズム推進協議会事務局 担当:野村
〒737-0871 広島県呉市西中央3-3 県チャレンジコア3F
TEL:0823-24-9430
FAX:0823-31-0617
E-mail:nomura@sg-giken.co.jp

お問い合わせの場合は、お問い合わせ用紙(別紙)に記入してお送り下さい。
お問い合わせ用紙は、下記URLよりダウンロードして下さい。
http://www.sggiken.or.jp/outline/outline.html

終わりに. . .



今後の展望および計画

- 外国人旅行者向けのエコツアー事業（ビジネス）化を促進する。
- 国内旅行者向けエコツアーの開発と事業（ビジネス）化を促進する。
- 人材の養成研修「エコ塾」による専門性と資格認定
- エコツーリズムのためのインフラ整備計画事業
- 防予諸島におけるサマーフィネッジプログラムのインフラ整備



秋吉台のエコツアー

秋吉台地域エコツーリズム協会
庫本 正



秋吉台の自然・歴史・文化を体験し、環境
人の育成を目指す。新しい観光の創造。

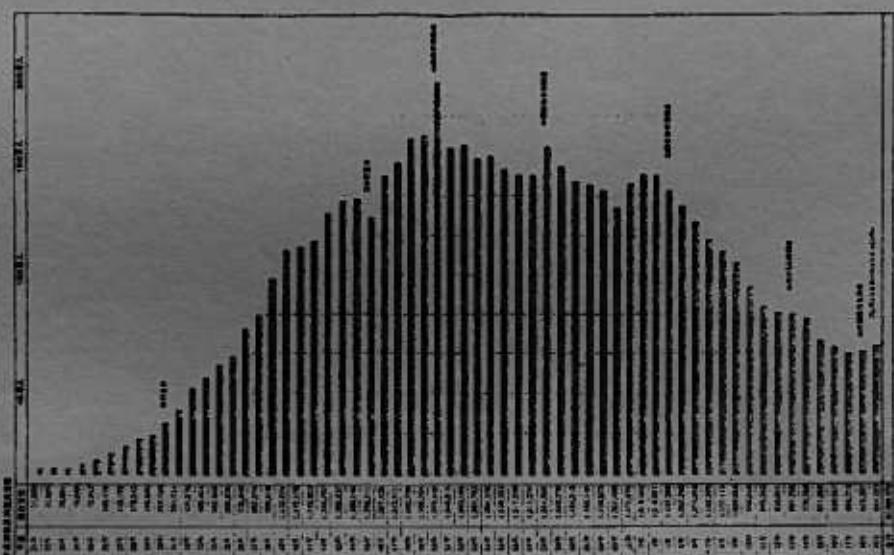


背景は地域社会の衰退でした



大きな原因は観光客の減少

秋芳洞の入洞者数の推移



解決策 山口県・美祢市の決定 2007年 秋吉台には新しい観光が必要 エコツーリズム（未来型観光）を創設

エコツアー実施グループ

(官) 秋吉台科学博物館、美祢市歴史民俗資料館
長登銅山文化交流館、秋吉台青少年自然の家、
秋吉台エコミュージアム、
(民) 秋吉台パークボランティアの会、秋吉台の自然に親しむ会、秋吉台エコクラブ、洞窟探検の会、森の駅、とっても愉快な秋吉台ミーティング、ホットビレッジ美東など。

グループは年間 2-9回のエコツアーを実施する。

実施方法 秋吉台を歩き、自然体験 2007年にモニターエコツアー開始

- 1) 各チームのインターパリターが計画を立案。
- 2) 協会は計画ができると、PRを始める。
- 3) 定員は5名～20～40名程度。活動は1日。
参加費は保険と昼食つき1500～8900円程度。
- 4) ガイダンスはインターパリターにより異なる。
草花や化石などの自然解説から深い哲学的思考を誘うものまで多様。
- 5) 終了と共にアンケートをとり、反省材料とする。
- 6) 毎年 エコツアーを目に見える形で進化させる。
進化しないものは滅びる。

2007年には21回（3回中止）のエコツ
アーを実施 231名が参加



2008年には29回（中止1）のエコツ
アーを実施 参加者479名



2009年31回（中止9回）のエコツアー
を実施 参加者309名



2010年44回（中止14回）のエコツ
アーを実施した 参加者394名。



2011年 50回（中止18回）エコツアー
実施 参加者428名



2012年冬まで38回（中止15回）のエコ
ツアーを実施 参加者433名参加

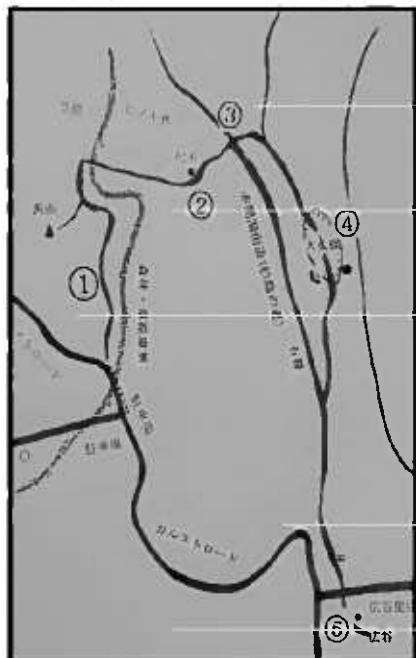


私たちの憲法

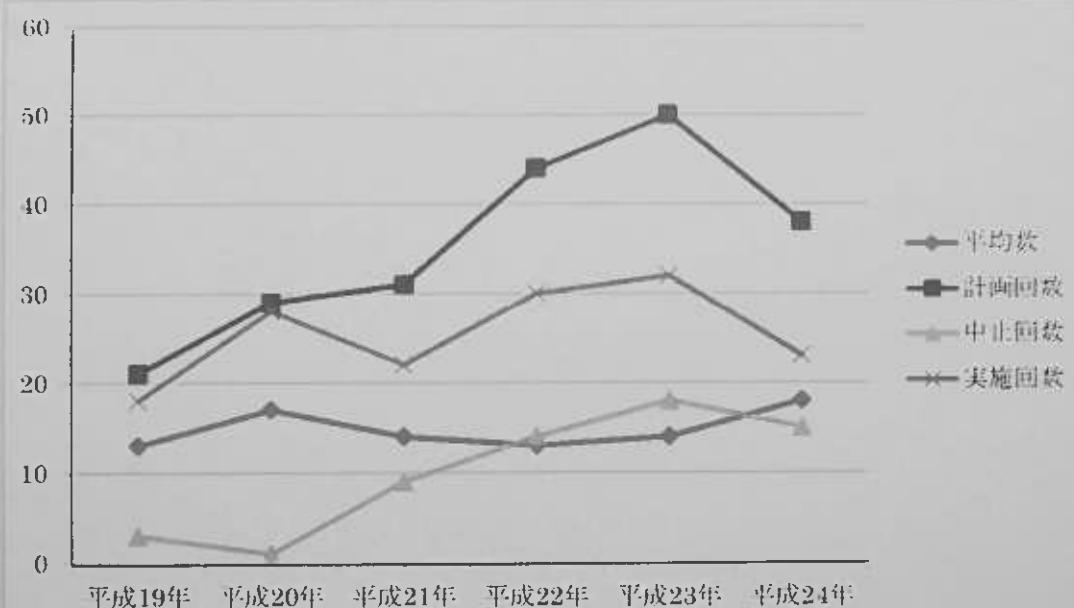
エコツアー文化をつくろう

- 1 お客様を心から歓迎（観光100年の反省）
- 2 事故のないツアーノルマ（体験から）
- 3 自然に負荷をかけないルール（推進法）
- 4 漢身のツアーノルマを構築する。
そのためすぐれたインターパリター（熱中人）を養成
- 5 仲間で話し合って、果てしなく進歩するツーリズムを構築する。
各インターパリターは独自のツアーノルマを考え、実施する。
毎年、進化を検証する。
- 6 楽しい遊びを入れる。

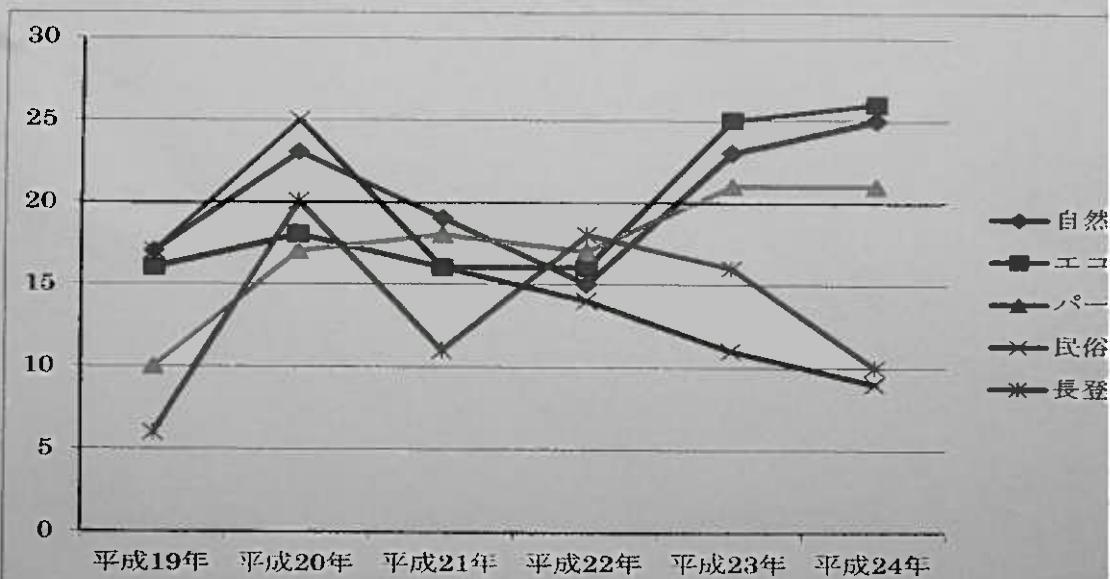
何度もコースを徹底調査をし、発見しながら、夢中で探る。コース調査は楽しい。



六年間の実績 熱意のあるツアーを実施しよう



六年間の実績から 熱中しなければ生き残れない



具体的な実施例

2011・6・6



吉田松陰の道を歩き、
ムラサキなどの野草を楽しもう



大テーマ

自然が3億年もかけてつくりだした自然、
その自然を人々が利用する姿を体験

小テーマ

- 1, 草原のムラサキやカッコウを観察 自然
- 2, 森林でサンゴ、腕足類化石の観察 自然
- 3, 人が大久保ウバーレに集落をつくったが・・歴史
- 4, 昼食 季節の郷土料理 食文化
- 5, 赤間が関街道で広谷ポリエへ 歴史
木喰仏(江戸時代につくられた仏像) の鑑賞 文化

3億年の歳月で出来た台地（化石、カルスト）

人がつくり出した草原の生態系 ムラサキ、カッコウ

江戸時代に出来た赤間が関街道 大久保ウバーレ

江戸時代に訪れた木喰上人が彫った木喰仏、広谷ポリエ

1) 草原を歩き、ムラサキの花を愛でる

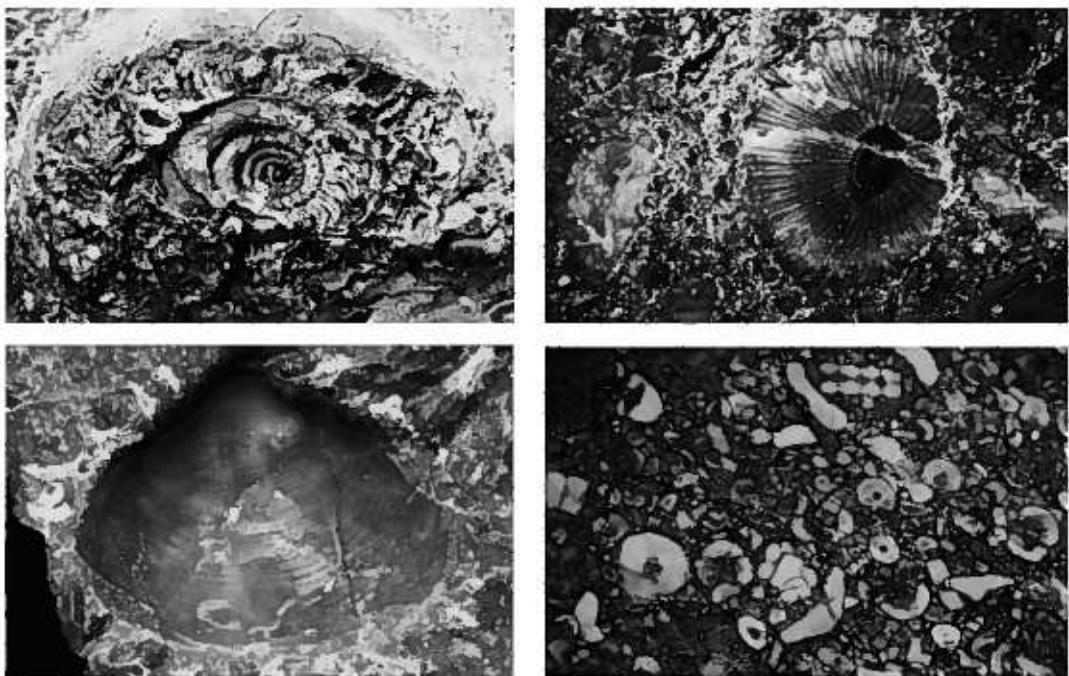
万葉集でうたわれた自然



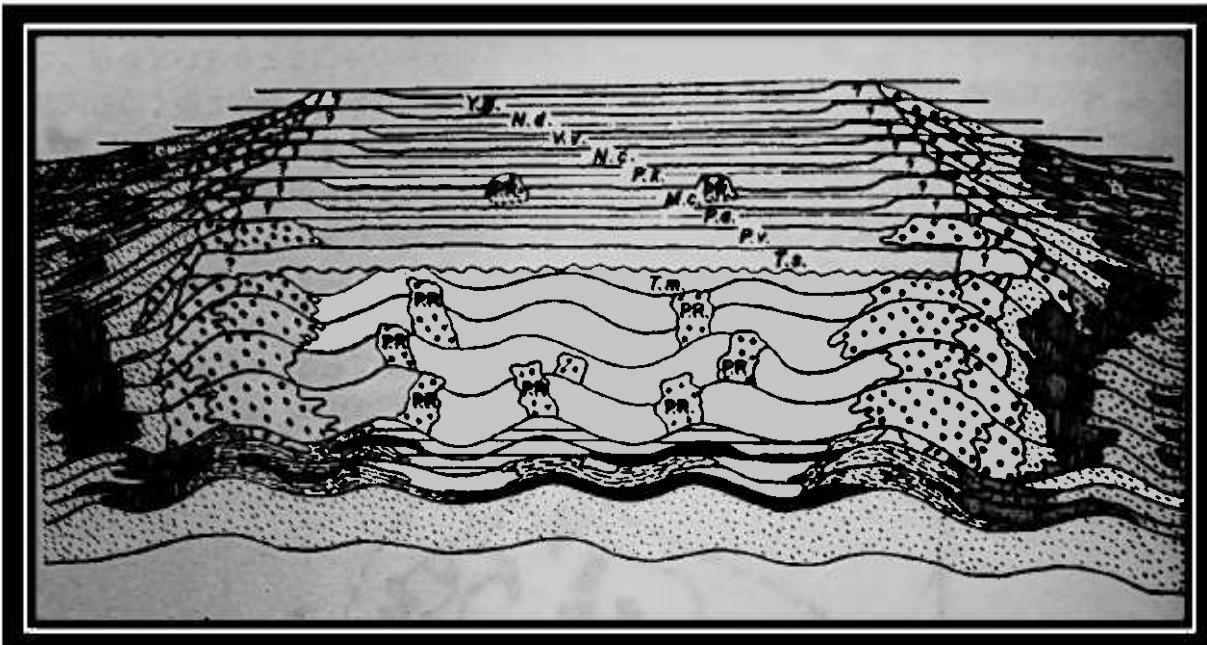
草原で見える草花



2) サンゴ化石から秋吉台の地質的起源を考える。



生物礁複合体の形成



3) 雨水が岩を溶かして カルスト地形を生み出した 一大久保ウバーレ・広谷ポリエー



大久保の穴(鍾乳洞) を探る



4) 昼食 (季節の郷土料理)



5) 吉田松陰も歩いた赤間関街道 (萩~下関間の古道)



広谷ポリエ(秋芳洞観光の村)



6) 広谷ポリエ、毘沙門堂の木喰仏
江戸時代に木喰上人が彫った仏像



最後に最高のコーヒーを飲みながら
「まとめ」をしました。



めざすは

最高のエコツアーをつくり
全国に紹介し、参加者を集めたい



エコツアーを成功させよう



NPO法人自然環境ネットワーク SAREN

主な活動について

NPO法人自然環境ネットワークSAREN

理事長 脇山 功







風土・風景への旅

夏の瀬戸内



山口県馬島 満潮時





風土・風景への旅

秋の瀬戸内



夕映えの宮島



安芸郡坂町 ベイサイドビーチ





広島県呉市 大長 平羅島



風土・風景への旅

冬の瀬戸内







広島県呉市倉橋島

早春の瀬戸内

小さな島の旅 感動の海辺





出典 ゲート^ト<http://map.goo.ne.jp/>















海を歩く 島を歩く

自然舎 山本 貴道



小豆島インフォメーション



人口 30,174人

(2013年1月1日現在)

面積 153.3km²

海岸線長 126km

最高標高 816m

特產品 醬油 素麵

オリーブ etc.

Google map より 抜粂

わたしの仕事

店の名前

自然舎 じねんしゃ

内容

小豆島をまるごとガイド

海と山のエコツアー



人生の転期

小笠原との出会い

小笠原ってどこ？



2004年春 小豆島帰郷

海を歩く 島を歩く

新しい発見の連続!

小豆島っておもしろい！

**自然・文化・産業
お宝いっぱい**

みんなに伝えたい！

**2004年秋
自然舎オープン！**

**小豆島の魅力を
たくさんの人たちに
楽しんでもらおうと
日々 躍進中**

これからの夢

つなぐ空間
古民家カフェプロジェクト

あたりまえの暮らし
を楽しむ！









第2回エコツーリズムフォーラム2013 講演集 平成25年3月9日

主催：瀬戸内ツーリズム推進協議会

【構成メンバー：広島県、呉市、廿日市市、（社）瀬戸内海エコツーリズム協議会】

後援：環境省中国四国地方環境事務所、中国経済連合会、一般社団法人日本旅行業協会、

中国新聞社、学校法人鶴学園広島工業大学、IWAD 環境福祉専門学校

協力：NPO 法人自然環境ネットワーク SAREN、NPO 法人自然と釣りのネットワーク

株式会社グローバルコスモ、ひろでん中国新聞旅行株式会社、株式会社近畿日本ツーリスト中国四国



瀬戸内ツーリズム推進協議会

【構成メンバー：広島県、呉市、廿日市市、(社)瀬戸内海エコツーリズム協議会】

〒737-0811 呉市西中央1-3-31 呉チャレンジコア3F
Tel 0823-24-9430 Fax 0823-31-0517